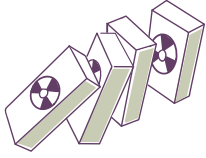


地震による原発事故のリスクは計りしれません

日本は4つのプレートが接している特殊な位置にあります。プレートが沈み込みと持ち上がりを繰り返しているため、非常に多くの活断層があります。活断層のひずみが限界を迎えると、巨大地震が発生します。日本の原発の多くは活断層の近くにあり、活断層が動き大地震が起これば、強固な耐震性で作られている原発でもひとたまりもなく破壊されることは、福島第一原発事故で明らかです。



つるが 福井県 敦賀原発

RED CARD

敦賀原発の敷地内には、活断層の「浦底断層」が通っています。また、破碎帯（過去の地震などによって地中にできた割れ目、石が崩れた部分が帯状につながっている地層）が約160本以上あり、2号機の原子炉の真下にも断層があります。原子力規制委員会の有識者調査団は、浦底断層を「非常に活動的」との見解で一致、破碎帯については「活断層の可能性が高い」と判定しました。（1号機は廃炉決定）

とまり 北海道 泊原発

原子力規制委員会は、泊原発から10kmの海底に、長さ20kmほどの活断層があるとの見解を示しました。また、原発敷地内にある断層が活断層であるかどうかが焦点になっており、活断層ではないという証拠はまだ示されていません。

しか 石川県 志賀原発

RED CARD

1号機の原子炉建屋直下を通る断層について、原子力規制委員会の有識者調査団は活断層であると判断しました。また、1、2号機タービン建屋直下にある断層についても「活断層の可能性が高い」としています。現在、2号機の安全審査で、敷地内の21本の断層のうち、5本の断層が調査対象になっています。（1号機は廃炉濃厚）

せんたい 鹿児島県 川内原発

桜島の北方、始良カルデラは巨大噴火を起こす可能性があります。噴火によって火砕流が核燃料に到達すれば、破壊的な被害をもたらします。しかし、実効性のある避難計画は作られていません。

原子炉停止や燃料搬出の目安になる噴火規模

緊急レベル

燃料搬出

★桜島薩摩噴火 川内原発で想定する最大規模

火山灰や溶岩などの量 **11km³以上**

警戒レベル

原子炉停止

★大正噴火 歴史記録として残る最大規模

火山灰や溶岩などの量 **2km³以上**

約50km

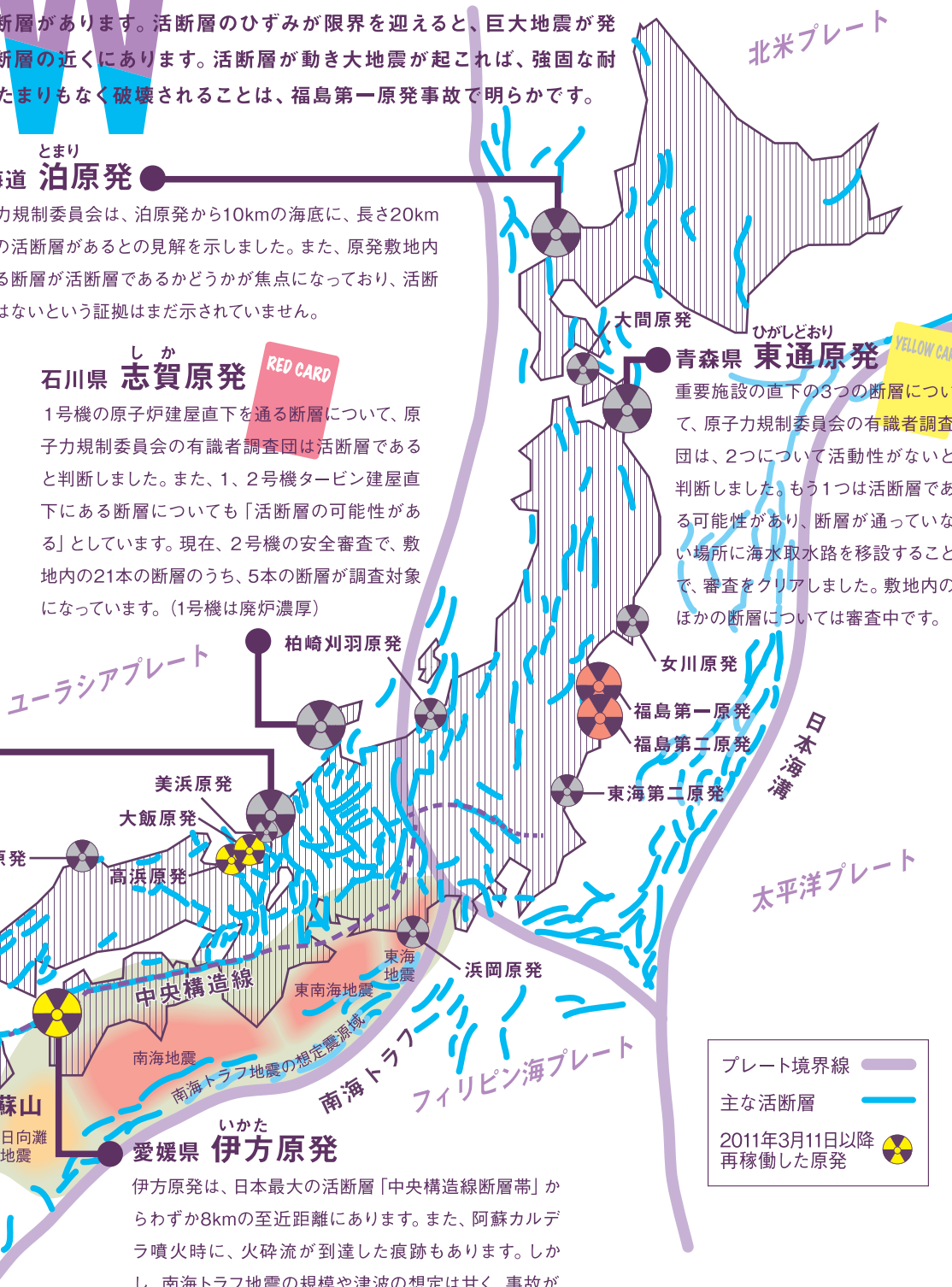


火山大国でもある日本 原発ゼロを実現しよう

日本は地震大国であるだけでなく火山大国でもあり、火山の活動期に入ったと言われていています。日本の国土面積は世界の0.28%ですが、世界の火山活動の約7~10%は日本で起きています。原子力規制委員会は、巨大噴火の兆候があった場合、原発の運転中止や核燃料の取り出しをする新たな基準案を示しましたが、過酷事故のリスクが明らかな原発を維持する必要は全くありません。世界は再生可能エネルギーへ進んでいます。原発は無くても電気は足りています。迷わず、脱原発・再エネ社会へシフトしましょう。

*このリーフレットでは、現在審査で活断層が問題となっている原発を中心にまとめています。東海地震が起きたら最も危険とされる浜岡原発など、他の原発が安全という訳ではありません。
*原発の新規制基準では、活断層の直上に原子炉などの重要施設を建てることを認めていません。原子炉直下に活断層がある場合、廃炉になります。

FUTURE



プレート境界線

主な活断層

2011年3月11日以降再稼働した原発